

いよいよ始まります  
第63回  
神宮式年遷宮



令和7年 6月上旬  
開催予定

- 1日目 桑名市  
桑名神社(春日神社)  
夕刻~夜
- 2日目 鈴鹿市  
神館飯野高市本多神社  
午前
- 2日目 津市  
三重縣護國神社  
午後~夜
- 3日目 伊勢市  
度会橋  
午前



各お立ち寄り先で  
歓迎行事が  
行われます

三重県神社庁HP  
神宮式年遷宮特設サイト▶



各お立ち寄り先で  
歓迎行事が  
行われます



## 令和7年 6月上旬 開催予定

じんぐうしきねんせんぐう

### 神宮式年遷宮

伊勢の神宮には内宮にも外宮にもそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、式年遷宮は20年に一度宮処を改め、古例のままに社殿や御装束神宝をはじめ全てを新しくして、大御神に新宮へお遷りいただく神宮最大のお祭りです。

1,300年にわたり繰り返されてきた式年遷宮は、20年に一度造り替えられる常に瑞々しいご社殿で、永遠に変わらないお祭りが行われることに大きな意義があります。

令和6年4月、天皇陛下の御聴許を賜り、正式に「第63回神宮式年遷宮」の諸準備が始まりました。

みひしろぎほうげいそうぎょうじ

### 御樋代木奉迎送行事

前例では長野県と岐阜県の御杉山<sup>みそまやま</sup>で最初に伐採された御樋代木<sup>みひしろぎ</sup>（御神木<sup>ごしんぼく</sup>）は長野県・岐阜県・愛知県・三重県を木曾川の流れに沿って陸路で奉搬され伊勢に御到着までの道中に、それぞれの地において郷土の伝統神事や芸能などで賑々しく盛大に奉迎送を執り行う行事のことで、以前は木曾川を下り（水運）奉搬されていましたが、現在では陸路で行われています。

#### 1日目 桑名

- 夕刻 ● 伊勢大橋南詰合流・引継式
- 奉曳開始（桑名神社まで）
- 奉迎祭（神賑行事あり）
- 御滞泊（桑名神社）

#### 2日目 桑名～津

- 午前 ● 奉送祭
- 桑名神社から御出立 鈴鹿市へ
- 四日市中央緑地公園前にて沿道奉迎送
- 神館飯野高市本多神社へ御到着
- 奉迎送祭（神賑行事あり）
- 奉曳開始（鈴鹿市役所まで）
- 奉曳後御出立 津市へ
- 午後 ● 津 上浜町へ御到着
- 奉曳（上浜町から栄町まで）
- 奉曳終了後、三重縣護國神社へ
- 奉迎祭（神賑行事あり）
- 御滞泊（三重縣護國神社）

#### 3日目 津～伊勢

- 午前 ● 奉送祭
- 三重縣護國神社から御出立 伊勢市へ
- 伊勢市までの道中で沿道奉迎送
- 伊勢市度会橋へ御到着
- 引継式

みひしろぎ（ごしんぼく）

### 御樋代木（御神木）

御神体をお納めする御器を造るための御料木で、御杉山から伐り出される一万本以上にもものぼる御用材の中でも最初に奉採される代表木で御祝木・御神木とも呼ばれ神聖視されています。

※1 御杉山<sup>みそまやま</sup>… 新宮御造営のための用材を伐り出す清らかな山のこと。天皇陛下の御治定によって決まる。（前回は「長野県上松町」、「岐阜県付知町」）

杉<sup>すま</sup> …… 材木を採る山や材木・樵（きこり）を意味する国字。

※2 御治定<sup>ごじじょう</sup>… 遷宮の諸祭などで特に重要な事柄については、天皇陛下に日時をお定めいただく御例のことで、御杉山の選定も天皇陛下のお定めを賜る御例となっている。

たいち

### 太一

神宮式年遷宮の「しるし」として用いられる「太一」は、古くは鎌倉時代の造営記録に見えます。

太一の漢語が意味する「万物を含有する大道」や「天神・北極大帝のこと」とされ、最も大切な最も尊いものとされることから、天照大御神が八百万の神々の中心的存在にましますことを象徴して、この標章を神宮式年遷宮に使うようになりました。